

# ケチケチ生活をしませんか？

村井 俊治

私たち夫婦はケチケチ生活をしています。私たちはケチですが、ケチ臭い生活はしていないつもりです。私たちの「ケチ」は、無駄な物は買わない、贅沢はしない、古い物でも捨てない、ウソモノは決して買わない、衝動買いはしないケチです。買うときは、ホンモノで、長く耐える物で、愛着が湧くような物を選びます。高額な物になることもあります。お金をケチる「ケチ臭さ」は持ちあわせません。安い物を沢山品揃えするのは、最も忌み嫌うことです。「ケチ」は、お金を大切にしていると言えます。本当にお金を使う価値のあるものには惜しげなくお金を使います。前に述べたように、古い物を大切にする「ケチ」をしています。

もし、私たちがケチでなかったら、NHKの朝の番組の「街角情報」で紹介される便利なグッズをことごとく買い揃え、部屋はグッズであふれかえるでしょう。私たちのケチには、部屋を物で埋めない、スカスカにしておくと言うケチも含まれています。中国人の学生が我が家に来たときに、「日本人の家庭でこれほど物が無い家を見たのは初めてです」と印象を語ってくれました。きっと貧乏な家庭と誤解されたと思います。不要な物は、慈善団体に寄付します。普段余り着ない服や下着は家内が困っている人たちを支援しているNPO団体に宅配便で送ります。いくらケチにしているとしても、買って役に立たない物は出てきます。自分には役に立たなくても、誰かが役に立ててくれるなら、さっさと役に立てる人に譲ります。

ケチな生活をしているとお金と物を大切にする習慣が付いてきます。これは環境に優しい生活に繋がります。環境に負荷になるような生活をしなくなります。大量消費、大量廃棄の生活はしません。特に老人になったら、環境に迷惑をかけない生活をしたほうがよいですね。ケチな生活は、当然不便です。便利なグッズがないですから、工夫で解決しなくてははいけません。頭を使います。結果として賢くなります。それでも電子レンジはありますし、電気洗濯機はあります。残念ながら原始生活は不可能です。ケチな生活の努力をしているというところが本音です。

戦前生まれの夫婦だからケチになることができるのだと思います。今の子供たちや物質文明に慣れたアメリカ人には、ケチな生活は無理かもしれません。地球環境問題の難しさは、ケチな生活ができるか否かにあると思います。ところがほとんどの方たちは、生活の質を落とさずに環境を良くしたいと言います。

日本の「勿体無い」文化をケチケチ生活の見本にして、地球環境に貢献したいですね。

